

<白金標準、645 円の下落に対する 0.618 の戻り期待・・・>



(出所：オアシス)

トランプ大統領は半導体の関税発動を延期し、通商拡大法 232 条に基づき商務省に調査する様に指示している。また自動車の関税に対しても軽減処置を発言するなど、米国売りに結び付いた関税リスクを軽減する動きを見せている。また日本の赤沢経済再生大臣と通商協議を行い、イタリア首相とも会合を行うなど、日本と EU に対する通商協議を進めている。特に中国上海黄金取引所とロンドン市場の白金価格のプレミアムが 60 ドルまで拡大するなど、関税に伴う元安の動きが中国国内で白金価格を押し上げている。

特に NY 市場でプラチナ価格は一時 878.3 ドルまで下値を模索しながら今週は 984.5 ドルまで戻りを見せており、関税リスクで売り込まれた値動きを巻き戻している。

そのため白金標準先物でも 4716 円の戻り高値から 4071 円まで 645 円の下落を行っているが、週末には 4412 円まで戻りを示し、黄金比に照らし合わせると 645 円の下落に対する 0.5 の戻りが達成している。また今週は新甫発会を控えており、安値発会の確率が高く、黄金比で示す 0.618 の 4469 円を試す値動きに注目したいと思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では MACD が上昇し、シグナルも切り上げている。また RCI では短期が切り上げ、長期は下げ止まっている。特に日足が 10 日移動平均線を超えており、40 日移動平均線に向けて戻りを強めると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に關し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,455,000 円(2025 年 4 月 21 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあります。その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 68,640 円(2025 年 4 月 21 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間: 平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あつせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>